

一般社団法人 国際教育推進研究コンソーシアム

2021年度事業計画

1. はじめに

本研究コンソーシアムは前述したように、日本の高等教育の国際化とグローバル人材育成に貢献し大学の枠組みを超えて以下のような研究課題を推進していくために、2014年1月に設立された。(設立時の一般社団法人 持続可能な国際教育推進のための研究コンソーシアムから2020年5月名称変更。)

- グローバル人材育成と学習成果分析に関する研究
- 大学国際化と国際戦略にかかわる組織(機関)評価の研究
- 世界の留学交流および留学生受入れ・送出し政策などの比較研究
- 国際的な大学間連携、教育交流を促進するための制度、システムの研究
- 持続的な国際教育促進のための研究

2020年度は、これらの目標推進の結果として創出された研究成果を社会実装へと進化させる試みに取り組み、社会実装の具体的成果を創出することができた。2021年度からは、これまでの研究を中心とした目標に加え、研究成果を社会実装化に結び付ける取り組みを推進する。具体的には、国際的な人材の流動化、世界の留学交流の促進に貢献するためのインフラとして、学修歴証明書の電子化を推進する。

こうした研究事業、社会実装事業を継続して取り組むことにより、日本の高等教育の国際化とグローバル人材育成に貢献していく。

2. 本コンソーシアムが取り組む研究領域と課題

本研究コンソーシアムでは、高等教育機関における国際化とグローバル人材育成のためのインフラやシステムにかかわる調査研究とそれらの研究成果を社会実装に結実させる取り組みを中心に推進するものである。

研究領域	課題
A) グローバル人材育成と学習成果分析に関する研究、及び、それに関わる社会実装化	① 国際教育プログラムの評価手法の研究 ② グローバル人材育成にかかわる評価指標の研究 ③ eポートフォリオの開発と運用にかかわる研究
B) 大学国際化と国際戦略にかかわる組織(機関)評価の研究、及び、それに関わる社会実装化	① 組織(機関)評価としての評価指標と手法の研究 ② 欧州、北米などの評価指標・手法との比較研究 ③ 国内外の大学のベンチマーク調査

C) 世界の留学交流および留学生受入れ・送出し政策などの比較研究、及び、それらに関わる社会実装化	① 各国の国際教育政策の比較研究 ② 世界大学ランキングにかかわる研究 ③ 世界的な留学生の動向・統計データにかかわる研究
D) 国際的な大学間連携、教育交流、人材交流を促進するための制度、システムの研究、及び、それらに関わる社会実装化	① 外国学歴・資格評価システム(FCE)の研究 ② FCE の促進に伴い、学修歴証明(卒業・成績証明など)の電子化を促進するための研究と実証実験の推進 ③ 学修歴情報の電子化のために国際連携(フローニンゲン宣言)への参加 ④ 非英語圏における英語コース(学位プログラム)にかかわる研究 ⑤ 各国の入学選抜(留学生の入学選抜を含む)などに関する研究(高校レベルの教育水準にかかわる調査、入試制度における英語力評価の研究) ⑥ ジョイント(ダブル)ディグリーに関する調査・分析 ⑦ 学事暦・学期制やギャップイヤーにかかわる研究 ⑧ 国際教育コンソーシアムにかかわる研究 ⑨ トランスナショナル教育(海外ブランチ・キャンパス、オフショア・プログラム、国際的な教育ハブ)にかかわる研究
E) 持続的な国際教育促進のための研究、および関連する社会実装化	① 大学国際化のための産学連携、第三者機関との連携にかかわる研究 ② 留学交流における危機管理体制に関する国際比較研究 ③ 国際教育にかかわる専門職人材の育成に関する研究

3. 2021 度事業計画

今年度は本コンソーシアムの取り組む研究領域、社会実装化課題から下の取り組みを行う。

① 学修歴証明書デジタル化を中心とした社会実装化事業

2020 年度は、本コンソーシアムの社会実装課題のうち、特に、大学国際化、グローバル人材育成、留学交流および留学生受入れ・送出し、国際的な大学間連携、教育交流、人材交流に関わりの深く、日本が世界から大きく立ち遅れている分野でもある学修歴証明書デジタル化について、挑戦的な社会実装の取り組みを実施した。過去 2 年間の主な社会実装成果は以下のとおりである。

- ・ フローニンゲン宣言ネットワークに日本から初めて本コンソーシアムが加盟した。
- ・ 学修歴証明書デジタル化に関する国際機関や日本の関連学会が主催するシンポジウム、セミナー、会議、学会誌等での発表を合計 11 回行い、日本の高等教育機関における学修歴証明書デジタル化の認知度の向上に大きく寄与した。

- ・ 日本の高等教育機関における電子学修歴証明書の社会実装化のための以下の取り組みを実施した：
 - ・ 電子学修歴証明書の国際プラットフォームの調査
 - ・ 日本の高等教育機関のための学修歴証明書デジタル化の要求仕様策定
 - ・ 上記要求仕様に基づいたプラットフォーム選定
 - ・ 日本の高等教育機関のための学修歴証明書デジタル化実証実験プログラムの設計・開発
 - ・ 上記プログラムの実施のための日本の大学への啓蒙・意見交換活動
 - ・ 上記プログラム実施のための国際プラットフォームとの提携枠組設計、契約交渉・締結
 - ・ 選定された国際プラットフォームにおける日本化開発の監督・指導・管理
 - ・ 実証実験後の電子学修歴証明書の実運用の制度・組織・提携関係構築の設計・開発・渉外
- ・ 上記取り組みの結果、本実証実験プログラムに参加した国際基督教大学、芝浦工業大学においては、2021年4月より電子学修歴証明書の発行が予定され、南山大学においても2021年6月から夏の実装化に向けての作業が進められている。
- ・ 2021年度は、実証実験を継続するとともに、実運用に向けた準備として以下を実施する：
 - ・ 実証実験結果の調査・分析
 - ・ 上記結果に基づいた実運用のプログラム設計
 - ・ 上記設計に基づいた国際プラットフォームとの実運用提携契約調印
 - ・ 実運用のためのプログラム開発・品質管理工程の設定
 - ・ 日本の関連IT（情報技術）企業との提携モデル開発、提携契約調印、システム連携実装開発

これらにより、幅広い層の大学に参加を促進し、社会実装を推進していく。

② 科学研究費助成事業(科研費)との連携

- ・ 基盤 A 「アジア太平洋地域の学生交流促進に向けた実証的研究—UMAP の活性化をめざして—」(研究代表者:東洋大学高橋一男、研究分担者:太田、芦沢、黒田、北村、花田)＜平成 29 年(2017 年)度より 5 年間＞
- ・ 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B)) 「国境を超える人材と資格・学歴認証の将来像」(研究代表者:芦沢真五)＜2019～2022 年度＞
2020 年度より、前述の①の学修歴証明書デジタル化社会実装事業につき受託した。引き続き 2021 年度において同社会実装事業を受託することとする。
- ・ 基盤 C 「地域のダイバーシティ推進に関する現場生成型研究」(研究代表者:横田雅弘) ＜2019～2021 年度＞
- ・ 基盤 C 「大学国際化のマネジメント手法開発—大学経営と評価の視点から—」(研究代表者:太田浩) ＜2020～2022 年度＞

③ 国際教育夏季研究大会の実施

日 時:2021年8月26日～27日(このほか、プレカンファレンス、ポストカンファレンスを予定)

テーマ :『国際教育交流の新しい展開と価値の創造』

Reimagining International Education: Creating space for Social Engagement,
Diversity and Inclusion

対 象:国際教育交流に関心のある大学等教育機関、団体・企業等の教職員

募集定員:基調講演・シンポジウム 1,000人(ハイフレックス)

ワークショップ 30人×3テーマ

セッション 30人×6テーマ

(7月、10月、11月に別途、WorkshopとSessionを実施する計画である。)

実施方法:研究大会期間の初日に基調講演、パネルを開催する(対面。研究大会期間中は同じくオンラインでワークショップとセッションを実施する。本研究大会は、特定非営利活動法人 JAFSA(ジャフサ)・国際教育交流協議会との共催とし参加者の募集広報、参加登録、参加費徴収等は JAFSAが行う予定である。

主幹協力大学:東洋大学を予定している。(施設、オンライン会議システムの提供等)

④ トヨタ財団助成事業との連携

科研「国別資格枠組み(NQF)、FCE資格認証システムに関わる研究」の成果を、より社会化・実用化するため、トヨタ財団の特定課題「外国人の受け入れと日本社会の取り組み」枠に下記テーマで助成金の申請し採択を得た。RECSIEの事業として取り組む。

テーマ :外国人材を戦略的に受け入れるための社会基盤の創設

－日本版NQF+FCE運用＝日本社会が求める外国人材の招致－

実施期間:2021年度～2023年度までの3年(2024年3月31日まで)

助成総額:900万円

⑤ 団体・企業等との連携による共同研究、研究会、セミナー等の開催

- ・ APAIE(2022年3月)などの国際会議に参加し、研究成果発表をおこなう。また、高等教育の質保証と国際化、大学の国際化戦略などにかかわるセミナーや研究会を開催する。

4. 執行体制

2021年度においてはSIIEJ2021の運営、学修歴証明書デジタル化・社会実装事業を中心に、以下の事業執行体制を設定する。

【研究開発事業】

- ・ 研究開発事業については、SIIEJ2021 の運営を含めて、芦沢理事が主担当し、横田理事他の理事の協力を得ながら推進していく。

【社会実装事業】

社会実装事業については、太田理事が高等教育界への啓蒙活動を中心に、中崎理事が事業開発、プロダクト・マネジメント、プログラム・マネジメント、法務、国際プラットフォーム・ベンダーのサービス品質その他のパフォーマンスに関する監督・指導・管理について責任を負い、他の理事の協力を得ながら事業推進していく。

【組織運営】

組織については、白石理事が中心となり、堀江代表理事他の理事の協力を得ながら運営していく。

5. 要員配備計画

SIIEJ の運営については、従来と同様に科研プロジェクトとの連携をはかりながら運営する。2021 年度においては、外部機関との提携を前提に協力して運営にあたる。

学修歴資格証明の電子化プロジェクトについては、科研費およびトヨタ財団助成事業との連携をはかりながら、必要な人員配置をおこなうとともに、関連企業と連携・協力をすすめる。

一般社団法人 国際教育研究コンソーシアム

<役員 2020年度 案>

代表理事 武田 里子 大阪経済法科大学 アジア太平洋研究センター
客員研究員 (定款上は、堀江里子)

理事 横田 雅弘 明治大学 国際日本学部 教授
理事 太田 浩 一橋大学 全学共通教育センター 教授
理事 芦沢 真五 東洋大学 国際学部 教授
理事 白石 勝巳 公益財団法人 アジア学生文化協会 理事長
理事 中崎 孝一 公益財団法人 未来工学研究所 主席研究員

監事 藤井 敏信 東洋大学名誉教授

<参考>

正会員(共同研究メンバー)

横田 雅弘 明治大学 国際日本学部 教授
太田 浩 一橋大学 全学共通教育センター 教授
芦沢 真五 東洋大学 国際学部 教授
白石 勝巳 公益財団法人 アジア学生文化協会 理事長
中崎 孝一 公益財団法人 未来工学研究所 主席研究員
黒田 一雄 早稲田大学 大学院アジア太平洋研究科 教授
北村 友人 東京大学 大学院教育学研究科 准教授
堀江 未来 立命館大学 国際教育推進機構 教授
米澤 彰純 東北大学 国際戦略室 教授
花田 真吾 東洋大学国際学部グローバル・イノベーション学科 准教授
関山 健 京都大学大学院総合生存学館 准教授

海外共同研究者

Darla K. Deardorff (デューク大学、
Association of International Education Administrators)

一般社団法人 国際教育研究コンソーシアム(RECSIE)

Research Consortium for the Sustainable Promotion of International Education

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-5-15 ストックメイジユ 203 TEL:03-6804-3889

ホームページ <http://recsie.or.jp/>